

## 門真市海外派遣研修

～Never give up!～

『帰国後交流会』を開催しました。

日時 2017年8月26日(土)

午後1時30分～3時30分

場所 門真市民プラザ内 4階

教育センター 研修室

出席者 久木元秀平教育長

長澤信之教育長職務代理者

土川好子教育委員

高橋元教育委員

坂口由加梨教諭(第五中学校)

石原直輝(学校教育課)

海外派遣研修生

岡野 睦(第二中学校)

田中 麻愛(第三中学校)

平沼 極(第三中学校)

中世古 実愛(第四中学校)

天野 千春(第四中学校)

荒木 望愛(第五中学校)

山下 未琴(第五中学校)

池田 清太郎(門真はすはな中学校)

加藤 有希(門真はすはな中学校)

<石原>帰国してから約1か月が過ぎようとしておりますが、この間、オーストラリアと比べての慌ただしい日々ではなかったでしょうか。

しかし、研修で行った10日間のオーストラリアでの体験や思い出は、きっと今でも皆さんの良い経験になっているかと思えます。これより、オーストラリアでの思い出だけでなく、異国の地へ行って学んだ事や日本と異なる文化等、研修生の皆さんが経験したことを、教育長、教育委員を交えて、

いろいろお話しただけだと思っております。ちなみに中学生の皆さんオーストラリア初めてでしたよね。行かれて、当然行く前と行った後ではいろいろ変わったことがあるかなと思うんですけども、どうでしょう。行く前と行った後でこれは変わったなあということありますか？



<池田>オーストラリアの人がすごい、誰にでも話しかける。フレンドリーな感じで、それがうつつた。この前も駅の前でおばあちゃんに話しかけられて友達になりました。



<一同>凄い！

<石原>他はどうですか？

<荒木>池田君が言っていたのとちょっと重なるかもしれないんですけど、オーストラリアの人ってみんな凄く優しくて、スーパーショップに連れて行ってもらった時、私がお金払おうとしたら、私が使っていた5ドルが新しい5ドルらしくて、旧5ドルがあるんだよってホストマザーが教えてくれて、その会話を聞いていた店員さんがわざわざおつりの中から探してくれて、それ

でもなくて、「無くて残念だったね」みたいになったら、後ろに並んでいた人が持っていて、わざわざ「あ、僕もってるよ」って、出してくれて、「写真撮りなさい」という感じで。そこまでして旧5ドルを探してくれて。



<石原>他はどうですか？こんな変わったなと思うところ。

<岡野>すごく表情が豊かになったねって言われました。英語が上手く伝わらない分、あっちですごいアクションとかずっと取っていたから、それが日本でも「ワオ！」みたいな。



<天野>「アウチ！」とかいうようになるよね。

<石原>他の方はどうですか？

<中世古>行く前までは、英語力、会話力だけが伸びると思っていたんですけど、実際行ってみたら違って、人と触れ合うことの大切さを学んだと思います。

<石原>人が温かい。

<中世古>そうですね。

<石原>結構、皆さんの中で、最初は日本語だったのが、どんどん英語でバディ（※現地校では「バディ」と呼ばれる学生と一緒に行動する）とも話すようになっていて、ほとんどの子が途中から日本に帰りたくないって言っていたと思いますけど、実際、日本に帰ってきて、オーストラリアと比べてしまったりすることとかってある？山下さんどうですか？

<山下>オーストラリアは学校がすごくのびのびしていて、日本は受験とか塾とか忙しいからオーストラリアに帰りたくなる。



<池田>オーストラリアでは授業中に音楽バンバンかけて、みんなで踊り出して、歌いだしたり、先生が授業中に化粧していたりするよね。

<石原>それでいうと、日本とオーストラリアとの文化の違い、特に学校で過ごす時間が多かったと思うんですけど、日本の学校と海外でバディと過ごしてきた学校との違い、ほかに感じたことはありますか？

<長澤教育長職務代理者>おやつタイムとかあるんですよね？日本だったらないですよ。

<平沼>なんか、すごく余裕がある感じで、なんか勉強もそこまで真剣に取り組んでいるかというところと取り組んでないし、おやつ時間とか、お昼ごはんの時間とか長いからみんなのんびりしていたし、自分のやりた

いことを尊重していたと思います。

＜石原＞他はどうですか？

＜岡野＞すごくゴミ箱がたくさんあった。

＜荒木＞いろんな所にポイ捨てるので、先生なのか掃除の人なのか良く分からないけど、車輪が付いているゴミ箱があって、休み時間にそれを押して、「はいここに捨ててね」って回っていた。

＜長澤教育長職務代理者＞まち中はどうだった？ポイ捨ては無い？



＜池田＞道に黒い点々があるんですけど、後で調べると、吐いたガムだった。学校とか道全部落ちたガムだらけで。

＜一同＞えー、汚い！

＜土川委員＞学校の人数はどれくらいでしたか？ークラスは何人とか。



＜平沼＞20人くらい。バディのアンナが言っていた。

＜加藤＞全部が広くて、運動場も広くて先生の人数も多かった。規模は大きかった。

＜石原＞それは中高一貫かだからというものもある。

＜天野＞あー、なるほど。だからあんな余裕があるんだ。

＜土川委員＞教室の写真とか出ていたけど、物が置いてないような感じ？

＜天野＞リュックサックを持って移動する感じで、ノートも一冊しか持ってなかったです。

＜池田＞パソコン使うとか

＜加藤＞一人一台持っていた。全部移動教室だから、パソコンをリュックに入れて、移動していた。

＜池田＞僕も持っていると思われていて、無くて戸惑っていたら、先生が「パソコン持ってないんですか？」って。「そら持ってないわ！」って。

＜坂口＞調べ学習が多かったですよね。

＜平沼＞はい。Historyとか。

＜久木元教育長＞現地校の皆さんと一緒に授業しているんですよね？



＜天野＞バディについて回る感じです。

＜久木元教育長＞具体的にはどんな教科を学んだの？

＜一同＞英語！社会！イタリア語！ダンス！

＜石原＞日本には無い授業ではドラマ（演劇）の授業とかありましたよね？

<天野>一人が歩いて、その歩き方真似するとか。4人1組になってブランケットになれとか。



<一同>いや、ムリムリ (笑)

<石原>そこで誰かのバディが動物を真似したって誰かが言ってたよね。

<田中>私のバディのグレイスです。なぜか犬の真似とかしていました。

<久木元教育長>日本でもそんな授業したいよね。

<一同>したい！楽しかった。

<田中>5教科よりいいと思うなあ。

<石原>あと、サイレントで封筒一枚だけで演技しなさいとか、課題があったよね。

<池田>あれのストーリーがよくわからない。僕が封筒もらって、それを誰かに奪われて、僕が悲しんで、バディのジェイクがそれをとり返しに行って、ごちゃごちゃってる、それで最終的になぜか手紙を踏まれる。

<坂口>ストーリーも考えてそれを演技するっていうやつね。ただ聞く姿勢に関しては、日本の方が優秀やったよね。幼稚園でよく手拍子で「パンパンパン」ってやったら、生徒が「パンパンパン」って、それをやっているような。だから、自由な分、聞くっていう点では課題があるかなっていう。あそこの学校だけなのかもしれないけど。何人か追い出されていたしね。バディが追

い出されていた人、手を挙げて。



<天野>ジェイクちゃう？池田君のバディの。私のバディは追い出されてないけど席移動された。

<高橋委員>そんなに騒いだりするの？



<池田>たぶん、みんな騒いでるんですけど、先生の中で個人的な限度があるんでしょうね、それを越えたら追い出されます。

<岡野>机の上立って踊る人もいるよね。

<池田>全部ジェイクが当てはまる…。

<天野>あと、男女間が日本と違う。仲が良くて、カップルが多い。日本は女子！男子！みたいな感じでわかれているイメージなんですけど、あっちは、女子の中に男子一人でも全然いいし。

<久木元教育長>今回の池田くんみたいや。

<天野>そうです、こんなグループでもありなんです。

<池田>山下さんのバディとジェイクがずっと一緒いたね。

<山下>カップルみたいにずっとくっついて行動していた。

<久木元教育長> そうなんだ。

<石原> 色んな授業を受けてきたと思うんですけど、実際に授業を受けてみてどう？内容は理解できた？

<天野> 単細胞とかバクテリアとか言っていました。

<加藤> そうそう、アメーバと赤血球とか。

<池田> 数学とかだと、まだ何十の何パーセントはいくつみたいな段階。それ今やっていて大丈夫？と思った。

<中世古> 受験は大丈夫なのかな？

<坂口> 理数系は日本の方が進んでいる。

<天野> 一番わからなかったのはやっぱりドラマの授業。

<池田> 僕はイタリア語が全然分からなかった。

<平沼> イタリア語受けたん？いいなあ。こっちは中国語をやっていた。

<土川委員> なにを覚えたかな？

<平沼> ノートをとるとか、そういうのはやらなくて、中国の文化ばかりパソコンで調べました。



<岡野> もしかして、中国のシンデレラ？

<一同> ちょっと待って。中国のシンデレラって何？（笑）

<岡野> 英語の時間に、中国のシンデレラっていう本を読んでいた。

<石原> みなさん、授業もそうですけど、やっぱり一番文化の違いを実感したのは食

事だったと思うんですけど、みんな食事ってどうだった？

<一同> 経由で立ち寄ったシンガポールのラーメンが美味しくなかった！（笑）

<石原> いや、オーストラリア限定で！

<長澤教育長職務代理者> 向こうの朝食って何？

<一同> シリアル、トースト！

<長澤教育長職務代理者> シリアルに牛乳かけるの？

<天野> そうです。シリアルに牛乳です。

<土川委員> それでお昼もサンドイッチとかでしょ？全然料理しないんだね。

<天野> 夜も買ってきたやつを、チンかオーブンかして、取り皿に出して食べていましたねうちは。

<中世古> うち是一日目は「ようこそ」みたいな感じでドバンっていっぱい出てきたけど、次の日からはよくわからないリゾットばかり。

<石原> 一番みんなが文化の違いを感じていたのはホストファミリーにももらったリンゴをどう食べたらいいか？じゃないかな。

<山下> 「これ、どう食べるん？」と思いました。

<天野> 小さ目のリンゴが丸ごと一個入っていて、最初みんな「エー」ってなってたけど、最後らへんはわりとみんな丸かじりしてた。

<坂口> 皮ごと食べるのは新鮮な体験だったね。でも先生からしたら、休憩時間にお一日目はみんな「このお昼前の休憩時間におやつ食べるの？」ってびっくりしていたけど、三日目ぐらいから馴染んで、みんな一緒になって食べていたのがおどろいた。

<天野> 自分で葉っぱ避けて、座って。

<加藤>なんかおなかすきだす、その時になつたら。

<池田>適応力がすごい。

<山下>体がそういう設定になつたんだ。

<土川委員>午前中に4時間あって、午後からは？

<一同>2時間。

<土川委員>そこは日本と一緒にですね。

<石原>日本と違うのは、一・二時間目がくっついているイメージ、で、三・四時間目。

<土川>クラブは？

<田中>無かったですね。

<石原>どちらかというところ、クラブというより習い事を家庭がさせています。バスケットさせたいのであれば、バスケットの習い事に行かせる。

<天野>うちのホストファミリーはフットボールに行っていた。

<池田>うちのホストファミリーのマーク・ガブリエルはゲーマー、ずっと一人でパソコン。

<石原>向こうの文化で言えば食事の量が多い。皆お弁当覚えていると思うけど、たくさん入っていて、残したら捨てて良いよっていう。

<中世古>でも申し訳ない。

<池田>その精神が向こうに無い。遠慮が無い。もったいないとかがない。

<中世古>食パンの中にレタスが入っていて、それを捨てる。しかも、ゴミ箱に捨てれば良いのにその辺に投げ捨てるし。

<土川委員>だれが掃除するの？

<天野>次の日もバナナの皮とかミカンの皮とか残っていましたよ。

<土川委員>日本やったら湿度高かったり

したら、虫がわいたりするけど。

<坂口>五時くらいからお掃除の方が入るんです。だから子どもがやっていないので、きれいにしようっていう意識が無い。



<平沼>バディには「日本は掃除を自分でするの？」みたいな。あと給食もめっちゃ驚かれた。「ランチもっていかないの？別個にあんの？」とか。

<荒木>「いつも何を持って行っているの？」って言われて、「持って行かない」って。

<天野>「スクールランチ」って言って通じなかった。「フリーランチ？」って聞かれて、「それぞれ」って。「フリーランチ」後で電子辞書で調べたら給食だった。

<石原>日本だったら、学校終わったら次クラブがあって、クラブが終わったら家に帰って、ってなると思うんですけど、向こうってもう3時10分に六時間目終わったら、一斉にみんな学生が帰って、家には多分3時30分頃にはみんな着いていたと思うんですけど。その後の生活どうでしたか？ご飯の時間も日本と全く違うんじゃないですか？

<田中>うちは早かったかな。

<中世古>6時とか。

<天野>早い時もあれば遅い時もある。早い時5時とか。遅い時は10時。「おなかすいたー」って。

<久木元教育長>待たされるの？

<天野>待たされます。「あれ、いつご飯にするんやろ」って。



<池田>一回パーティみたいな日があつて。知り合いの家に行って、何家族か集まって、パーティをして、7時くらいから始まって、最終的に夜、遅くまで…。

<天野>外国の家族は二家族以上あわせたら、大変なことになるよね。

<土川委員>え？ どういう感じで？

<天野>うるさくて。「うわー」って走り回っているんですよ。

<久木元教育長>え？ でもそれ全部、英語でしゃべっているんだよね？

<天野>英語でしゃべっています。あ、でも、うちの家族に別の家族が遊びに来た時は、一部は英語でしゃべって、一部は日本語で、一部は韓国語みたいな…。

<久木元教育長>それぞれのホストファミリーに中国の方とか韓国の方とか留学に来ているんですか？

<田中>そういうホストファミリーもありましたが、うちは無かったです。

<平沼>私はホストファミリーが中国とかベトナム系の人でした。だから、食べ物も飲茶ばかりで、食事はあんまり困らなかった。

<長澤教育長職務代理者>教えてほしいんですけど、英語の違いは感じた？ オースト

ラリアは大体イギリス系の英語でしょ？ アメリカイングリッシュじゃなくて。その辺は感じた？

<石原>最初は感じて、おそらく研修生の子どもたちも最初は「ん？」っていうところあつたと思うんですけど、もう、すぐ慣れましたね。

<荒木>トゥデイがトゥダイだったり。ネイムがナイムだったり。

<石原>そういうのも、二日目くらいからすぐ適応して。その時リスニング力がすごいあがつたと感じました。皆さん、実際に学校や家で生活してる中で一番よく使った英語は？

<天野>「コールド」と「プリーズ」。寒かったので。

<池田>これぞ日本人の精神かなって思うんですけど、一番使ったのは、「ソーリー」。オーストラリアの人は、人に話しかける時は「ハイ」とか、でも僕たちはみんな「ソーリー」とか「エクスキューズミー」とか。

<石原>みんな帰りのバスの中で話聞いたとき、どの人もリスニング力があがつたんじゃないかなと実感したって言っていたと思うんだけど。

<加藤>テレビも全部英語だし、会話も英語だからだんだん慣れていきました。

<田中>テレビも番組によっては全然わからない。なあ、岡野さん。お料理番組しか分からなかった。

<岡野>あ、でも一日一話進んでいく番組は、内容が分からないなりに、映像見ながら「こういう話かな」と思いながらみてたら、だいぶ分かってきて、三話か四話ぐらいで「あー」こういうことかって、すごく楽しかった。

＜平沼＞うちはテレビ見てない。ずっとWiiをしていた。Wiiは日本とあまり変わらなかった。



＜田中＞うちのWii壊れてた…。  
＜久木元教育長＞英語のドラマ見てたら英語力高まるよね。

＜加藤＞二日目、うちはテレビが日本語でした。

＜一同＞いいなあ。

＜土川委員＞それはラッキーね。

＜加藤＞ニュース番組で、台風情報やっていました。

＜岡野＞テレビでやっていた日本の料理番組で、日本食を作るってやっていて、「これ日本食？」みたいなのがあった。

＜田中＞すごく変な餃子を作っていた。そもそも、餃子は日本食じゃないし。

＜石原＞帰ってきて、大体、今一か月経ったと思うんですけど、「やっぱり日本が良いな」というところありますか？

＜一同＞食事。

＜岡野＞だってジャガイモが「シャキ」っていうんですよ。ホストマザーが作ったカレーもジャガイモが「シャキ」っていう。

＜加藤＞普通においしいのもあったけど…。

＜一同＞歯磨き粉味のチョコ！野菜がない！毎日同じ味付け！カレーが辛い！ご飯がばさばさ！

＜天野＞そう、日本はご飯がおいしいよね。

オーストラリアでは何か付属品みたいな。

＜荒木＞何かと一緒にないと食べられない。

＜石原＞じゃあもう一つ質問ですけど、もう一度ホームステイする機会があったらどう？

＜一同＞したい。

＜池田＞同じ状況でも違う状況でもしたい。

＜土川委員＞何ですか？

＜池田＞同じホストファミリーとかバディだったら、もうちょっとちゃんとした英語でしゃべって過ごしたいし、他の家庭になるんだったら、やっぱり前の家庭と比較したりしたいです。

＜土川＞ほかの人はどうですか？



＜天野＞何もかも楽しい。日本と違って、「こんなあるんや」という発見がすごく楽しかったの。

＜田中＞うん、楽しい。

＜加藤＞新しいことがいっぱい、英語もすごく勉強できたし、日本と違って自由だったから。

＜平沼＞でもなんかなまりそう。「約束事とかルールとかちょっとくらい破ってもいいや」と。

＜天野＞変な影響受ける。

＜池田＞そこらへんは吸収したらダメなこと！

＜石原＞でも、日本とオーストラリアの文



化の違い、なかなか言葉にできなくても体に感じたこといっぱいあると思うんですね。今後みんなの後輩にあたる人たちが、こういった形で研修を受けていくってことがあった時に、みんなは行った経験者として先輩として言えるアドバイスみたいなものは何かな？たとえば後輩から「どうでしたか？」って言われたときにどういったアドバイスをしますか？

＜加藤＞折り紙は現地の小学生に教えたときすごく喜ばれました。



＜池田＞手裏剣は絶対、喜ばれる。

＜加藤＞そうそうそう。喜び方がはんぱじゃなかった。

＜中世古＞あの時は、苦労したな。



＜加藤＞二人で作りまくって、最後は走り回って教えたな。

＜久木元教育長＞ドラえもん絵描き歌を現地の子どもに教えていたけど、ドラえもんは有名なの？

＜岡野＞基本的には全然知られていない。知っている子は知っています。

＜石原＞みんなが後輩に、たとえば英語の勉強の仕方をアドバイスするとしたらどんなこと言う？

＜池田＞とりあえず学校の勉強はちゃんとやっておく。役に立つから。

＜天野＞単語でも良いからしゃべった方がいい。身振り手振りも単語。

＜田中＞単語を覚えていたら凄く強い。文法はあまりいらぬ。



＜加藤＞単語を言えば分かってもらえるから。

＜荒木＞どれだけ自分の知ってる単語の量が多いかで決まった。文法は“can I”“may I”とかぐらい。

＜石原＞最初、一日目のみんなのパディと会った後の「どうしよう」っていう顔と、二日目以降の「とりあえずしゃべっていこう」っていう顔、すごく変わったと思いました。「積極的にしゃべらないと向こうも分からないし」っていう感じで、最後の方、「どうしよどうしよ」って悩むより、「とりあえずしゃべってみよう」っていう姿勢になっていた。そこらへんも一つのアドバイスになるかなって僕は思う。

＜天野＞最後の最後に、パディに「いつ帰るの？」って聞かれて、とっさに「二日後」っていうのが出なくて、「トゥモロー、トゥモロー」って言ったら、「ああ、二日後ね」って言われて、「ああ、それ」って。ほんと

になんでも良いから伝えるのが大切。

＜石原＞そういったところがコミュニケーションだと思うんですね。みんな英語漬けになって、日本語を忘れていたよね。

＜池田＞誰か「よいしょ」って言葉忘れていた。

＜荒木＞あっ、私。荷物持って立ち上がる時に「よいしょ」が出てこなくて「あれ、こんな時なんて言うんやっけ」てなりました。



＜石原＞今回の経験で、きっとみんながこれから英語学んでいくときの学び方も変わってくるんじゃないでしょうか。みんなも言っていたと思うんですけど、会話以外のリーディングの部分でも最初は一つ一つの単語を読んでいたのが、こことこことこを讀んだ

ら大体文章分かるっていう、そういう力もみんなついたんじゃないかなと思います。来週から学校始まって、二学期入った時に周りの友達に「どうやった？」って聞かれた時、ぜひ、今回の研修で学んだことを友達に発信してもらえたらと思います。周りの子も、行ってはなくても行った気持ちになって、「やっぱり英語をしとかないと」って、考えてくれると思います。

今、国際化と言われてみんなが世界に目を向けてるところもあると思うんで、それを今回研修に行ったみんなが中学校の段階でできた国際経験はすごい財産になると思う。

現地での私の最後のコメントでもみんな宝物をちゃんと手に入れているはず、という話をしてきたから、ぜひそういった経験を活かしてこれからの学校生活送っていただければと思います。ありがとうございました。

